

# 産業界と連携した 高品質組込みソフトウェア技術者 養成プロジェクト

# SQEP

## 中間成果報告会

～ソフトウェアの価値は、その機能、生産性（再利用性）、安全性により決定される。  
モデル駆動開発はこれらの要求を満たすことのできる環境のひとつである。  
モデル駆動開発を習得することは、いわば、良質なソフトエンジニアへの第一歩である～

## 次世代組込みソフトウェア技術者の育成プロジェクト



産業界と連携した高品質組込みソフトウェア技術者養成プロジェクト（SQEP）では、平成22年度文部科学省の補助事業により、ソフトウェア開発の品質・開発効率の向上を目的とし、ソフトウェアの開発を設計図中心に行う開発手法（モデル駆動型開発：MDD）の有効な教育を行う教育プログラムの開発、教材の作成、実証講座の実施、成果物に対する評価の枠組み作りを行っております。

この度、本プロジェクトの中間成果報告会を下記の通り実施いたします。奮ってご参加いただきますようお願いいたします。

### 開催日時・場所

- ▶ **開催日時** 2010年11月1日(月) 13:00～18:00  
(交流会 18:15～20:00)
- ▶ **開催場所** KKRホテル熊本 2階 城彩
- ▶ **参加費** 無料 (交流会ご参加の方のみ 5,000円)
- ▶ **主催** SQEP実施委員会 (産業界と連携した高品質組込みソフトウェア技術者養成プロジェクト実施委員会)
- ▶ **共催** 学校法人赤山学園 九州技術教育専門学校

### 講演者



基調講演

**Cortland Starrett 氏**  
(メンターグラフィックス)

「より付加価値の高いソフトウェアを作り出す 15:05～16:25  
良質なソフトウェアエンジニアを育成するための教育プログラム」

概要：これからのリアルタイム組込みソフトウェアの作り方の先駆者としての経験と実際の教育手法について講演する。高い生産性と高い品質を維持しつつ、確実に組込みシステムを開発するためには、実際に業務に携わる人材が、幾つかの図面を適切に扱い、目標とする機能や情報構造を適切にモデル化することが求められる。このスキルを習得させるためのステップを事例を交えてお話しする予定である。それには、経験を積んだエンジニアへの学習支援から高校生へのモデリング指導まで幅広い年齢層に対する Cortland の教育経験が含まれている。日本の先進的な情報技術教育者にとって参考になれば幸いである。

経歴：米国 Purdue 大学にて電気工学の学位を取得後、IBM 社、Bioanalytical Systems 社、Pitney Bowes 社を経てメンターグラフィックスに入社、現在、メンターグラフィックスにおいてモデル変換技術に関するエンジニアリング・マネージャを務めている。特に xtUML を C、C++、SystemC、Java、VHDL 等の言語へ変換する技術を中心に活動を行っている。また、Faith Christian School にて代数、電気、通信、暗号論、ソフトウェアツール、モデリング、プログラミングを教えるとともに、学生たちを通じコンピュータサイエンスの習得のための最適なカリキュラムの作成、教育方法の研究を行っている。



特別講演

**福田 晃 氏**  
(九州大学教授)

「九州の組込みシステムの未来像」

14:20～15:00

概要：我が国の産業を牽引している組込みシステムについて、欧米、アジアと比較した日本の現状を述べ、さらにその中で九州の組込みシステムの進むべき道を述べる。

経歴：日本電信電話公社（現 NTT）武蔵野電気通信研究所、九州大学助手、九州大学助教授、奈良先端科学技術大学院大学教授を経て、現在九州大学システム L S I 研究センター センター長、九州大学教授を併任。また、NPO 法人九州組込みソフトウェアコンソーシアム (QUEST) 理事長、九州地域組込みシステム協議会 (ES-Kyushu) 副会長、(財)組込みシステム技術協会 (JASA) 理事などを務める。専門分野は、組込みシステム / ソフトウェアユビキタスコンピューティング、システムソフトウェア (オペレーティングシステム、コンパイラ)、並列 / 分散処理、計算機アーキテクチャである。

お申し込みは裏面をご覧ください

SCHEDULE

# パネルディスカッション

タイトル

16:35～17:55

## 「ソフトウェア開発でモデルを使う効用」

### 概要

モデル駆動開発という技術は、そもそもソフトウェア開発の生産性や品質問題を解決する革新的な技術として90年代に登場したものである。ところが、近年は、産業用途ばかりでなく、情報科学の教育現場で利用するケースが出始めた。これによって、ソフトウェアモデリングという極めて専門的な技術を普通高校や情報工学の学校、大学などで教えることが始まっている。

この結果、モデリングの基礎的スキルがより一般化し、日本のソフトウェア開発のレベルがより高い方向へシフトできる可能性が生まれている。

本パネルディスカッションでは、九州においてモデリングや MDD を推進している教育側の方と産業界で実務を推進している方に、現状、今後の展開、近未来に何が期待できるかを議論いただく予定である。



コーディネーター

二上 貴夫 氏

(東陽テクニカ)

経歴：1978年筑波大学第一学群自然学類卒業、(株)東陽テクニカにてリアルタイム計測システムの開発、組込みソフトウェア製造のコンサルタントを経てソフトウェアシステム部。現在は主に教育技術の研究、ソフトウェア品質の調査を行なう。2005年よりNPO法人SESSAME 理事としてマジカルスプーンを開発、信州大学香山准教授と共同研究を開始。同年東海大学非常勤講師として組込み技術教育を行なう。2007年より東海大学専門職大学院組込み技術研究科教授を兼務。

パネリスト：Cortland Starrett 氏 (メンターグラフィックス) / 福田 晃 氏 (九州大学教授) / 久住 憲嗣 氏 (九州大学准教授) / 小谷 満也 氏 (電盛社)

## スケジュール

12:30

受付開始

14:20～15:00

特別講演

福田 晃 氏 (九州大学教授)

13:00～13:10

開会挨拶

15:05～16:25

基調講演

Cortland Starrett 氏 (メンターグラフィックス)

13:10～13:30

SQEPの全体説明

赤山 聖子 氏 (九州技術教育専門学校副理事長)

16:35～17:55

パネルディスカッション

コーディネーター：二上 貴夫 氏 (東陽テクニカ)

13:30～13:50

教材開発分科会 中間報告

久住 憲嗣 氏 (九州大学准教授)

17:55～18:00

閉会挨拶

13:50～14:10

調査・評価分科会 中間報告

渡辺 登 氏 (IPA/SEC リサーチフェロー、アフレル)

18:15～20:15

交流会 ※参加希望者のみ

産業界と連携した高品質組み込みソフトウェア技術者養成プロジェクト

## 参加申込書

(申込日：平成22年 月 日)

企業 / 団体名称		
担当者 ご連絡先	<input type="checkbox"/> 氏名 <input type="checkbox"/> 電話	<input type="checkbox"/> 所属 <input type="checkbox"/> メールアドレス
受講者名▽	メールアドレス (申込確認・連絡等に利用させていただきます。)	交流会へのご参加
		参加 ・ 不参加
		参加 ・ 不参加
		参加 ・ 不参加
		参加 ・ 不参加

※記載いただいた個人情報は本プロジェクトの運営に利用し、他の目的には使用いたしません。

### <メールでのお申込みについて>

メールでのお申込みご希望の方は、件名を「SQEP 中間報告会参加申込」とし、本文に①企業 / 団体名称②担当者ご連絡先 (氏名・所属・電話・メール)③受講者名・メールアドレス (複数名可)④交流会への参加・不参加を記入していただき、下記のメールアドレスまで送信してください。

### <お問い合わせ>

九州技術教育専門学校 熊本校 (担当：赤山)  
〒860-0041 熊本県熊本市細工町5丁目35-1  
TEL 096-211-0181 / FAX 096-211-0182

FAX:096-211-0182 / Mail:kumamoto@ktec.ac.jp

※申込書を記入後、FAXにてそのまま送信していただくと申込完了となります。